



きらめき 串本野っ子

〔校訓〕
よく考え、
明るくすなおで、
がんばる子

令和5年度 6月号
串本野小学校学校便り
令和5年6月20日発行



温かい人間関係



校長 常山 隆治

アメリカの精神分析医「ベラック」は、哲学者「ショーペンハウアー」の寓話にでてくるヤマアラシの出来事が、「互いに親密になりたいのに近づくことができない」という人間関係の葛藤に似ているとして、「ヤマアラシのジレンマ」と名付けたようです。

冬の寒い日に、2匹のヤマアラシが暖を取ろうと互いの体を寄せ合おうとしたところ、身体のトゲが互いを刺してしまいました。その痛みから身体を離すと、今度は寒くて耐えられません。2匹は近づいたり、離れたりを繰り返しながら、ついには互いに傷付けずに済み、互いに暖め合うことができる距離を発見し、その距離を保ち続けました。」という寓話です。

そこで、子どもたちの中にも「ヤマアラシのジレンマ」の寓話のように、友だち関係のことで悩んでいる人がいます。仲が良いからこそ、踏み込んだことを言ったり言われたりして、相手を傷付けてしまったり、自分が傷付いてしまったりすることがあります。ヤマアラシのジレンマから逃れることはなかなか難しいですが、いくつかの対応策はあると思います。

まず「思い込み込みから自由になる」ことです。

「あの人は～に違いない」「あの人はきっと～だ」という勝手な思い込みや決めつけをしないことが大切ではないでしょうか。「相手のことをよく知らない」ということを自覚することで、自分の思考や相手への関わりが柔軟になり、自分の見方や考え方が変わることもあるはずです。

次に、「相手の気持ちや立場を尊重する」ことです。

相手のことを大切にしている。相手の存在をリスペクトしているというメッセージが相手に伝わるのが大切だと思います。大切な相手の意見ならば、たとえ自分とは違う意見を言われたとしても、「そんな考え方もあるのか・・・」と柔軟に受け止めることができるはずです。

最後に、学校や教室を「安全な空間」にお互いがするという事です。

「安全な空間」とは、皆さんが不安を感じたり友だちから嘲笑されたりすることなく、自由に自分の思いや考え、時には自分の悩みを口にできる場のことです。こうした開かれた居場所としての学校や教室ができるように、一人一人が自分の行動や言動を見直していければ、温かい人間関係を創っていくことができるでしょう。

是非、ご家庭でもお互いの良さを認め合い、他者を思いやる大切さについて語っていただければ幸いです。

